

第5期 雄武町総合計画 後期実施計画書 兼 事務事業評価調書

様式1

No. 15020020

政策目標	4 うるおい・雄武～生活環境・生活基盤の充実～	会計区分	1 一般会計	[全体計画内容] ※後期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	19 消防・救急・防災体制の強化	事業優先度	B	
単位施策	3 消防・救急体制の充実	政策事務分類	3 単独自治事務(その他)	
事業名	救急業務体制整備事業	見直し年度		
事業期間	平成25年度～平成29年度	担当課	15 消防支署	
事業主体	雄武町	関係課	#N/A	
事業指標	救急救命士研修回数		#N/A	
事業目標	10回	ハード/ソフト 事業区分	2 ソフト事業	
住民参加	無	関係例規・法令名	有 救急救命士法、救急業務実施基準	
住民協働		関係個別計画名	無	

全体計画 事業内容		平成 25 年度 事業内容	平成 26 年度 事業内容	平成 27 年度 事業内容	平成 28 年度 事業内容	平成 29 年度 事業内容	
計 画 内 容	救急救命士育成(研修) 救急救命士採用 気管挿管病院実習	救急救命士育成(研修) 救急救命士養成採用(1名) 気管挿管病院実習	救急救命士育成(研修) 救急救命士採用(1名)	救急救命士育成(研修) 気管挿管病院実習	救急救命士育成(研修)	救急救命士育成(研修) 気管挿管病院実習	
	事業費(千円)	14,750	5,550	5,682	1,301	916	1,301
計 画 事 業 費	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	0					
	地方債	0					
	その他	0					
一般財源	14,750	5,550	5,682	1,301	916	1,301	
実 績 事 業 費	事業費(千円)	4,522	4,522	0	0	0	
	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	0					
	地方債	0					
その他	0						
一般財源	4,522	4,522					
関 連 事 項	特定財源の名称		(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	
	【評価・実績】	救急救命士育成(研修) 救急救命士養成採用(1名) 気管挿管病院実習	救急救命士育成(研修) 救急救命士採用(1名)	救急救命士育成(研修) 気管挿管病院実習	救急救命士育成(研修)	救急救命士育成(研修) 気管挿管病院実習	
		※前年度評価結果 A-継続/現状維持	※前年度評価結果	※前年度評価結果	※前年度評価結果	※前年度評価結果	
	前期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値	3研修	2研修	2研修	1研修	2研修
	第6期計画への継続 (継続有り)	年度達成率	81%	0%	0%	0%	0%
	全体達成率	31%	31%	31%	31%	31%	
	事業進捗状況	☆☆☆☆					

事業名	救急業務体制整備事業	評価者	管理職 職氏名	支署長	高見 雄二
		評価者	作成者 職氏名	警防係長	佐藤 和幸

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	職員(救急救命士)	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)		
【抱える課題やニーズは】	救急活動の充実	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	救急現場に救急救命士が出勤し、重度傷病者に高度な救命処置を実施する。	① 札幌医大研修 気管挿管病院実習	目標年度	平成25年度
			目標値	7人
【その結果、どのような成果を実現したか】 ※成果＝目的	研修をすることにより救急救命士が高度救命資器材を使用できるようになり、重度傷病者の救命率の向上、予後に抱える後遺症の軽減が図られる。	② 救急救命士新規採用数	実績値	7人
			達成度	100.0%
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	札幌医大研修	医師の指導のもと研修(救急搬送患者を医師の指示のもと処置を実施)を実施(25年度 6名 6回)		
	気管挿管病院実習	遠軽厚生病院で気管挿管実習を実施(30症例 1名)		
	救急救命士募集	町広報誌、町ホームページ、新聞広告に掲載、養成学校(北海道ハイテクノロジー専門学校・吉田学園医療歯科専門学校)へ依頼し1名採用。		

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input checked="" type="checkbox"/>	義務的なもの	現有救急救命士の生涯研修及び実習は義務付けとなっている。
必要/概ね必要	<input type="checkbox"/>	全部	
/課題あり	<input checked="" type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	<input checked="" type="checkbox"/>	設定した目標値の達成状況	現有救急救命士の生涯研修及び実習については達成でき、新規救急救命士1名が採用になる。
有効/概ね有効	<input type="checkbox"/>	達成	
/課題あり	<input type="checkbox"/>	ほぼ達成	
	<input type="checkbox"/>	下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	<input type="checkbox"/>	判断の理由	現有救急救命士の生涯研修及び実習を受けたことにより、町民に対し高度な救命処置を実施できる資格を取得した。
効率的/概ね効率的	<input type="checkbox"/>	事業費抑制	新規採用者が1名あり効率的な人員配置ができるようになった。
/課題あり	<input type="checkbox"/>	人員削減	
	<input type="checkbox"/>	時間短縮・作業軽減	
	<input checked="" type="checkbox"/>	その他	

(4)事務事業の公平性

公平	<input type="checkbox"/>	判断の理由	救急救命士の資質向上を図り、資格者が増員となったことにより、重度傷病者に対し高度な救命処置が実施できる。
公平/概ね公平	<input type="checkbox"/>	受益者負担がある	
/公平でない	<input checked="" type="checkbox"/>	受益者負担がない	
	<input type="checkbox"/>	受益が一部に偏る	
	<input checked="" type="checkbox"/>	その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A～D】

- A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
- B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
- C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
- D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
救急救命士資格者1名の採用により、今後有効な人員配置ができるようになった。研修については、手技の向上が認められるため今後も必要であると考え。		

今後の展開方向
(Action)

継続/現状維持		
継続してこの状態を維持していかなければならないが、新規採用者にとっては、今後の退職者を考慮し広く求人をしていかなければならないと考える。 町民にとって高度な救急活動を行うことによって、安心できる町づくりを目指すには、継続事業であることが適当である。		

※展開方向の区分

- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
- 終了 ○休止 ○廃止